

「人は宝・人は財産」の理念のもと 高齢者の就労をサポート

村関 不三夫

はじめに

株式会社高齢社は、近い将来、高齢者が働き手として社会に貢献する時代が到来することを予感した上田研二初代社長が、2000年1月に設立しました。もともと東京ガスの社員であった上田社長は、経験が豊富で、気力・体力・知力があるOBのみなさんに「働く場」と「生きがい」を提供したいと考え、株式会社高齢社という一度聞いたら忘れられないユニークな名前の会社を立ち上げたのです。

当初は登録社員25名でガス会社やガス機器メーカーの請負事業としてスタートし、その後、業容拡大のため一般労働者派遣事業（2002年7月）・有料職業紹介事業（2004年11月）の資格を取得、現在はシニア専門の人材派遣業としてガス関連をはじめ各方面に人材を派遣しています。

私たちは4つの経営理念を掲げてきまし

た。それは、①定年を迎えても、気力・体力・知力のある方々に「働く場」と「生きがい」を提供していくこと、②働く人を大切に「社員≧顧客≧株主」の人本主義、③豊富な経験と知識を活かし、お客様には「高品質・低コスト、柔軟な対応力」を武器に優れたサービスを提供していくこと、④「知恵と汗と社徳」重視の企業風土を醸成する、というものです。

まさに1年後には21世紀の扉が開こうとする年に、高齢化社会の到来を予感しつつ、高齢者自身が時代を変革していく戦力になることを確信して新しい一歩を踏み出してから20年、高齢社が現在展開する事業と、今後目指していく世界を紹介させていただきます。

高齢者を取り巻く環境

総務省は2021年9月20日の敬老の日に合わせ、2015年の国勢調査を基にした高齢者の人口推計を公表しました。65歳以上の人口は前年より22万人増えて3,640万人、総人口に占める割合は29.1%となり、過去最高を更新しました。30%に迫ろうとする高齢化率は世界最高で、2位のイタリア（23.6%）、3位のポルトガル（23.1%）を大きく上回りました。国立社会保障・人口問題研究所の「日本の将来推計人口」（2017年版）によれば、0



むらざき ふみお
株式会社高齢社 代表取締役社長

歳～14歳までが1950年では34%を占めていたのに対し、2015年には13%まで下がり、2060年には9%になると予測しています。一方、65歳以上については、2015年で26%を占め、2060年には39%に達するとしています。

高齢化率が今後も上昇を続ける中で、就業者全体において高齢者が占める割合も、過去最高の13.6%になりました。日本は主要7カ国(G7)の中では最も高齢者の就業率が高い国となっています。政府が「生涯現役で活躍できる社会を創る必要がある」とし、高齢者の就労を進める中、高齢者の就業率は25.1%と初めて「4人に1人」に達しました。産業別に見ると「卸売業、小売業」が128万人と最も多く、次いで「農業、林業」が106万人、「サービス業(他に分類されないもの)」が104万人と続いています。働き方は、パート・アルバイトなど非正規の職員・従業員が7割を超えています。

時代を先駆ける社名

高齢者の就業意識は時代とともに高まってきましたが、会社創立の年は、今ほど高齢者が即戦力となることは考えられていませんでした。創業者は90年代に当時の通産大臣の講演を聞いて高齢者の働く時代が遠くないことを実感、労働者不足を補うのは「女性・老人・外国人・ロボット」だと考えました。まさに、今、労働力として実際に活躍し、さらに求められているのは高齢者であり、女性であり、外国人労働者であり、そしてロボットです。手前味噌ながらその先見の明に脱帽するのみです。私自身東京ガスにいましたので、上田さんとは2年ほどともに働いたことがあります。とにかく明るく前向きな人でした。2002年には障害者支援事業を手掛け、2013年には家事代行業や女性の活躍支援事業にも着手しました。

現役の人ではなかなか手が回らなかった業務を、OBに手伝ってもらおうという発想が高齢社のスタートでした。ガス関係の仕事は多岐にわたりますが、例えばマンションの落成時には給湯器の点火試験という業務があります。平日のみならずお客様の都合によっては土日の勤務になることもあり、人手が全く不足していました。上田さんは、経験豊富で気力や体力がある先輩たちが暇を持て余しているのは何とものったいなと考え、OBによって労働力不足を補うことに着目しました。設立の経緯から、派遣業務の約6割は東京ガス関係の業務ですが東京ガスとの資本関係はありません。25名でスタートした登録社員も現在では1,022人となりました。平均年齢は71.2歳(最高齢84歳)で就労率は34.7%です。高齢社の本社スタッフは25名、平均年齢はこちらも高く66歳となっています。会社設立当時、「高齢社」という社名はとても驚かれました。しかし、高齢者という貴重な人材を派遣して労働力の不足を補い、働く高齢者自身には「やりがい」や「生きがい」「働きがい」をもたらす「高齢社」の存在は少しずつ知られていきます。その後、上田さんが経済人の活躍にスポットを当てるテレビ番組に登場したこともあり、そのユニークな名前は浸透していきました。

シニア派遣事業の多彩な職場

高齢社では、60歳以上75歳未満で気力・体力・知力のある方が、年金を受け取りながら働くことを前提としています。働き方としては、業務のある場合のみ勤務する不規則勤務形態で、原則として年金併用型により週稼働日数は平均3日、働く人の都合を優先して、ワークシェアリングを実施しています。原則時給で賞与手当・退職金はありませんが、会社業績に応じて期末手当を支給します。労災保険が適用され、厚保・健保は一定の加入条

件を満たす所定労働時間であれば加入、また、雇用保険は所定労働時間（20時間/週）を満たす場合は加入というのが基本的な処遇となっています。また、本人と派遣先の合意が必要ですが、定年制度はなく生涯現役が目指せます。現在の最高齢は81歳、3人の方がそれぞれの持ち場で活躍しています。

主な派遣業務は東京ガス関係では、新築マンションの内覧会（ガス機器取扱説明）・ガス機器性能試験やガス設備・機器の点検、保安業務サポート、ガス設備・機器などに関する各種調査業務、閉栓業務、検針、料金収納業務、倉庫管理、LNG基地管理業務などがあります。LNG受け入れの立会いは高圧ガス取扱い主任者資格を要するため、高齢者の技術や経験が生かされる業務です。それ以外の業務では営業事務補助や各種サポート業務、書類精査・各種検収業務、DM発送・電話受付業務、各種モニタリング業務など多岐にわたります。ユニークなところでは家電機器の修理サービス社に同業して、駐車違反にならないように助手席で待機するという業務があります。また、ガス会社の制服は身分の保証になるため自宅に持ち帰らず、まとめて洗濯し、アイロンをかけるという業務もあります（図参照）。

シニア人材派遣、それぞれのメリット

・働く人のメリット

高齢社で働く高齢者たちからは「今日、用がある嬉しさ」、「今日行くとところがある楽しさ」という声が聞こえてきます。まさに「教養」と「教育」です。定年になったばかりの時期は、働くことから解放されて旅行やゴルフ、趣味の世界に没頭できますが、しばらくすると、やはり働いて社会と関わりを持つことで社会に貢献したいという思いが湧いてきます。とはいうものの体力のこともあり、フルタイム勤務は敬遠してしまいがちですが、高齢社から派遣されれば、週3日程度の勤務が無理なく選べますし、業務によっては自分の経験や技術を生かすことができます。

・派遣先（お客さま）のメリット

一番は月末等の締めや有期の業務に対応してもらえることです。募集や面接、採用などの業務は不要なことから労務管理の軽減にもつながります。社会保険も不要ですし、社員の残業代も軽減され低コスト化を生み出します。また、経験豊富な高齢者は即戦力となるばかりか、若い世代には人生の先輩として良き相談相手になってくれ、コミュニケーションが豊かになることから会社全体のモチベー



ションもアップします。

・当社にとってのメリット

派遣で働く人、派遣先様の両方から感謝されることは会社として大きな喜びです。また、派遣先様や派遣登録者による口コミ効果で、広告宣伝費をかけずに業容拡大が実現しています。働く人たちの高い評価が新たなご用命につながっているのです。労働力の提供で、慢性的な労働力不足に貢献し、高齢化の活性化に寄与することを今後一層目指していきたいと考えています。

課題に向き合いさらなる前進を

当社の基本方針は「元気な高齢者がたくさん働く高齢社会の実現」です。そのためにも一人でも多くの高齢者に「働く場」と「生きがい」を提供していきたいと考えます。もちろん、課題は山積しています。一つには登録者と仕事のマッチングの難しさです。経験・能力・適性・体力などを仕事の内容に適合しているかを精査していきますが、腰痛など持病があったりすると紹介できる業務の幅が狭くなります。反面、資格を持っている人は勤務条件が必要な場合にとっても強力です。若い人たちにもさまざまな資格を取得しておく大

切さを伝えていきたいと考えます。パソコン操作などについては最近の高齢のみなさんはほとんどの方がクリアしていますが、運転免許ということでは高齢者の運転に新たな見解が出始めており、厳しい状況になっています。

時代の流れとしては70歳までの雇用延長が努力義務とされたため、登録者の確保が難しくなる側面もあります。また、受け入れ側にはまだまだ認識のずれがあり、書類の年齢から判断してしまう担当者もいるため、先入観を払拭してもらう必要があります。

課題は尽きませんが、高齢者が働きやすい環境づくりが進めば「高齢者が働くこと」が特別なことではなくなります。高齢者がいきいき働けば健康寿命が延びて、社会保障費は軽減され、現役世代の負担減に実を結びます。働く高齢者が多くなれば消費も活性化され、税収も伸びます。

「元気だから働く」のではなく「働くから元気」なのです。高齢社という唯一無二の看板を掲げる会社として、「人は宝・人は財産」を合言葉に、常に時代を先駆ける気概を忘れず、「生きがい」「やりがい」「働きがい」のある社会の実現のために挑戦し続けていきます。